

# 南京玉すだれ 魅力伝え10年

## 無料公演や歴史本出版

2021.11.7 中国新聞

が両手に持ったすだれを軽やかに操ると、順正寺こども園（中区）の子ともたちから歓声が上がった。5人のメンバーがマジックなども交えて約1時間の芸を披露。大きな拍手に包まれた。

池田さんは「仙助流南京玉すだれ」の4代目家元だ。陽気な芸の雰囲気や、自在に形を変えられるすだれの特徴にひかれ、東京の3代

「あ、さて。あ、さて」。独特な掛け声に合わせて戴着椅姿の池田政人理事長（72）

に形を変えられるすだれの

目の元に通っていた1984年、広島に保存会を設立。現在の法人を2004年につくった。

「子どもたちに芸を継承したい」と保育園や幼稚園での無料公演を始めたのは11年。「大人になって人を楽しめたいと考えた時に玉すだれを思い出してほしい。そのために、まずは楽しんでもらいたい」と舞台では笑顔を決やさない。公演回数はこの10年で51回を数えた。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、無料公演は昨年3月から中止が相次いだ。その間は練習回数を増やす一方、玉すだれの歴史を室町時代までさかのぼって整理し約350頁の本にまとめて出版した。県外からも反響があったという。

現在は、希望者への個人レッスンにも力を入れる。「もっと多くの人に玉すだれの魅力を伝えたい」と池田さん。園児たちがいつか、後に続いてくれることを願っている。

掛け声に合わせて技を披露する池田さん（左端）たち



## ひろしま講演芸 陽気な芸 園児に笑顔

日本の伝統芸能「南京玉すだれ」の継承に力を入れるNPO法人ひろしま講演芸（広島市南区）が市内の保育園などで無料公演を始めて12月で10年を迎える。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で公演できない時期も、玉すだれの歴史をまとめる本を出版するなど地道に活動。「若い世代に魅力を伝えたい」と未来を見据える。（小林旦地）